

背景と課題

- 第5期科学技術基本計画は、総合科学技術・イノベーション会議として初めての5か年計画
- 4期20年にわたる基本計画により、研究者や質の高い論文は増加、また、青色LED、iPS細胞等多くのノーベル賞受賞等の顕著な成果。しかしここ10年、研究開発資金の伸びが停滞する中で、世代間、組織間、国境等の様々な「壁」に阻まれ、若手を始めとした研究現場は疲弊、基礎研究力も低迷し、世界の中の我が国の立ち位置は全体として劣後傾向。危機感とスピード感を持った対応が必要。
- 世界は、ICTの飛躍的進展等を受け、「第4次産業革命」とも言うべき大変革時代が到来し、経済・社会における価値創造プロセスが大きく変化。科学の世界も、広く多様な参加者の下で急速な進化を遂げる「オープンサイエンス」の時代。欧米、中国等との経済成長の「糧」であるイノベーションをめぐる国際競争は熾烈に。(ドイツ インダストリー4.0、米国 先進製造技術開発)

第5期科学技術基本計画の基本的考え方

急速にビジネスや社会の仕組みが大きく変わる時代において、国際競争を勝ち抜いて行くため、官民を問わず若手・女性等全員が参画。グローバルな視点に立ち、未来に向けた成長の「糧」の獲得と、「世界で最もイノベーションに適した国」の実現に向けて、様々な「壁」の打破を主軸とし、未来を先取りする取組と、不透明な時代に対応できる基盤的な知の力を徹底強化。さらに、人材、知、資金の好循環を誘導するイノベーションシステムを整備。

【3つの「重要事項」】

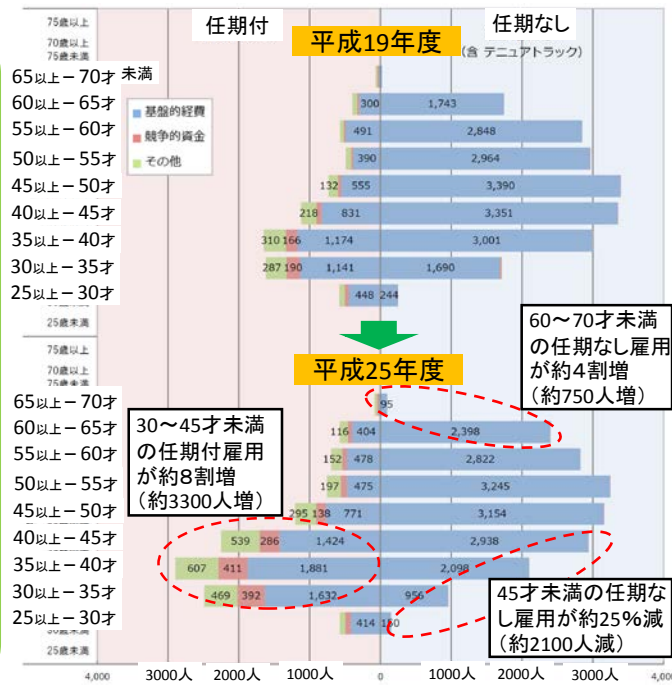
- 大変革時代を先取りする未来の産業創造と社会変革に向けた取組**
日本発の「ゲームチェンジ」を興す。また、我が国の強みである技術力を磨くとともに、システム化を図り、共通基盤的な技術を更に強化。
- 経済・社会的な課題の解決に向けて先手を打つ取組**
人口減少、安全・安心な生活等の諸課題の解決に向けて科学技術面から貢献。
- 不確実な変化に対応できる基盤的な力の徹底的強化**
若手・女性の育成・流動化、世界と戦える基礎研究力の強化等



【駆動のための「仕掛け」】

- 人材、知、資金の好循環を誘導するイノベーションシステム構築**
研究開発への民間資金の導入促進、地方創生に資するイノベーション等

【主要研究大学*の教員雇用状況】(文科省調べ)

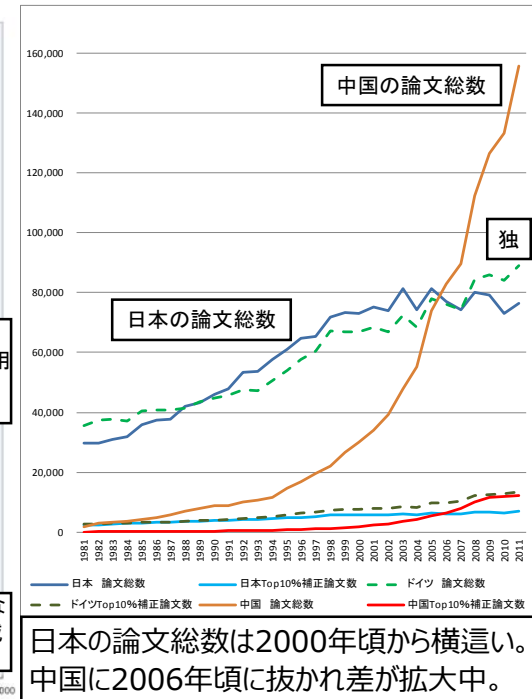


若手研究者の雇用が不安定化

※主要研究大学はRU11:北海道大学、東北大学、東京大学、早稲田大学、慶應義塾大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学、筑波大学、東京工業大学

出典: 文部科学省 科学技術政策研究所 「科学研究のベンチマーキング2012」平成25年3月に基づき、内閣府作成

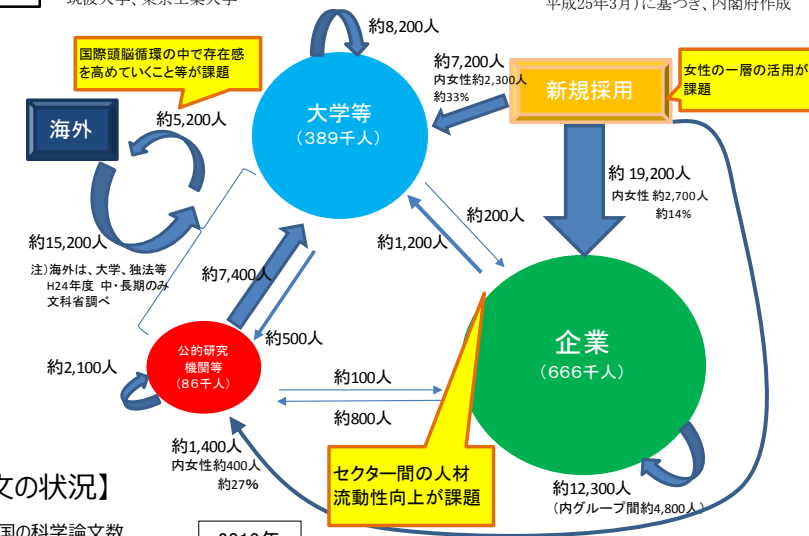
【論文総数の国際比較】



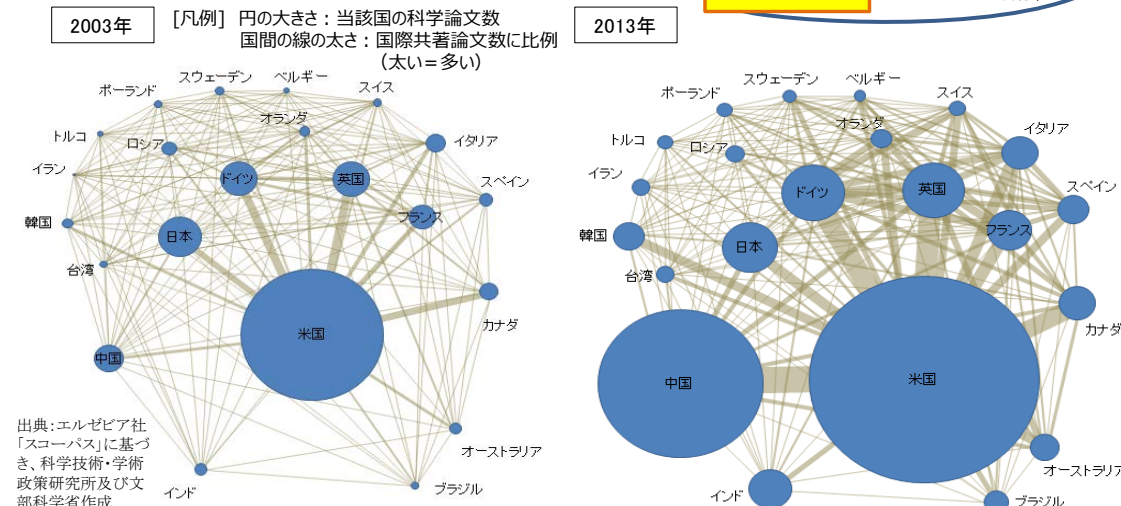
【機関間の研究人材フロー】

大学-企業間、海外との人材交流が少ない

出典: 総務省平成26年科学技術調査結果 平成25年度実績データにより内閣府作成



【世界の科学出版物と共著論文の状況】



過去10年、世界全体で国際共著論文が大きく増えているなか、我が国の伸びは相対的に少ない。